

派遣先所属 宮城県農政部農地復興推進室  
 氏 名 天野 篤 (あまの あつし)  
 派遣期間 平成29年4月1日～令和2年3月31日

### 1 派遣業務の内容及び現況

派遣先の農地復興推進室は、東日本大震災の津波等で被災した沿岸農村部を対象に、復興交付金「農山漁村地域復興基盤総合整備事業」による創造的復興、すなわち耕地の大区画化、水田の汎用化、換地制度を用いた土地利用の整序化を推進するほ場整備を実施しています。受け持ちは、震災後ほ場整備に着手した気仙沼地区（気仙沼市）、牡鹿地区（石巻市）、南三陸地区（南三陸町）、手樽地区（松島町）、七ヶ浜地区（七ヶ浜町）です。これら5地区の復興交付金申請がメイン業務で、下表の5回・延べ15地区・計5,812百万円（事業費ベース）の予算獲得に携わりました。室の同僚には青森県派遣職員もいます。

これまでに関わった復興交付金申請

申請回\地区名	①気仙沼	②牡鹿	③南三陸	④手樽	⑤七ヶ浜
第18回				○	
第19回	○		○	○	○
第21回				○	
第22回	○	○	○	○	○
第25回		○	○	○	○



### 2 被災地の復旧・復興の状況

宮城県の農地関連の復旧・復興完成面積率は99%と、令和2年度完了をにらんだ最終段階にきています。しかし、令和元年10月12日から13日にかけて通過した台風19号で大きな被害が出ました。県内の雨は、丸森町筆甫で1時間降水量80.5mm、24時間降水量588.0mmに達しました。この大雨で、整備したほ場や水路に崩壊や浸食、土砂堆積などが生じ、加えて緊急の応急対応のため在来工事はストップしてしまいました。

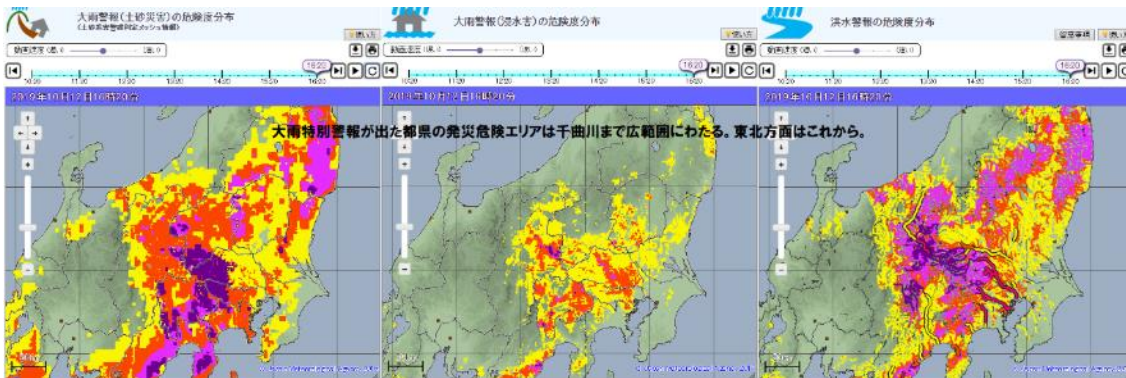


整備したほ場の令和元年台風19号被災状況

### 3 被災地へ派遣となって感じたこと

今、毎年のように甚大な自然災害が続いています。わが国のような湿潤変動帯では地震、津波、火山、気象災害などを招く極端現象が繰り返し起き、地球温暖化により風水害や土砂災害リスクがいっそう増したと言われていています。しかし、それをどこまでわがこととして受け止めていたか、台風19号の際の自分を振り返り“正常化の偏見”に陥っていた姿に気づきます。

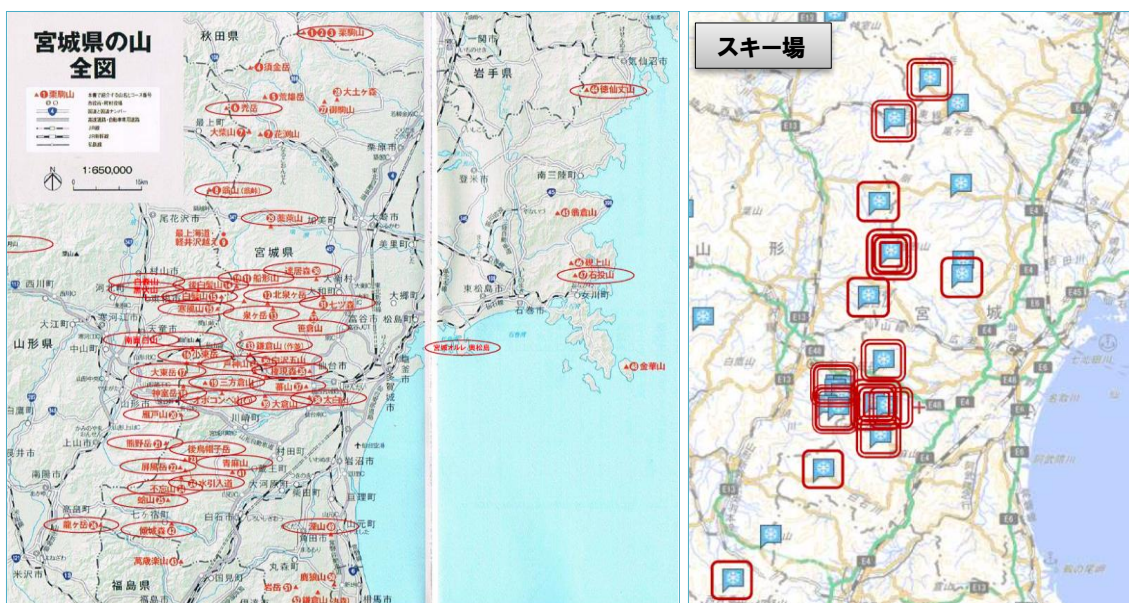
気象庁は、台風19号を1958年狩野川台風になぞらえ、尋常ではない危機感を伝えました。これを狩野川⇒静岡県伊豆半島周辺が危険と連想し、すっかり他人事として捉えてしまいました。いよいよ台風が近づきWebで大雨や洪水の危険度分布を眺めていると、紫色の範囲が神奈川、埼玉と進んでゆき、12日夕方には衰えることなく隣県にまで迫りました(下図)。



10月12日16時20分時点の大雨警報(土砂災害)・大雨警報(浸水害)・洪水警報の危険度分布

勝手な予想に反し夜8時には宮城県にも「特別警報」が出、三連休初日にまさかの3号配備(災害対策本部体制)。なんの根拠もない「自分(ここ)は大丈夫」という思い込み。これこそが「認知的不協和」と呼ばれるヒトの心理のなせる業。幸い自らの身に危害が及ぶことはありませんでしたが、反省しきりの週末でした。

最後に、すっかりわがまち感覚になった宮城県のスメを少々。主な観光地やおまつりやイベントはほぼ行き尽くし、夏は山歩き、冬はスキーで休日を楽しんでいます。下の左の地図がこちらに来てから登った山○、右が滑ったスキー場□です。朝のお天気と気分次第で動き始めることができ、時間も費用もかからない日帰りがほとんど。こんな身近に豊かな自然がある環境をうらやましいと感じられる方は、ぜひ『ちょうどいい、宮城県。』への移住を検討してみてください。カモンカを筆頭に🐱や🐶や🐼や🐨たちが勢揃いしてお待ちしております。



(令和元年10月作成)